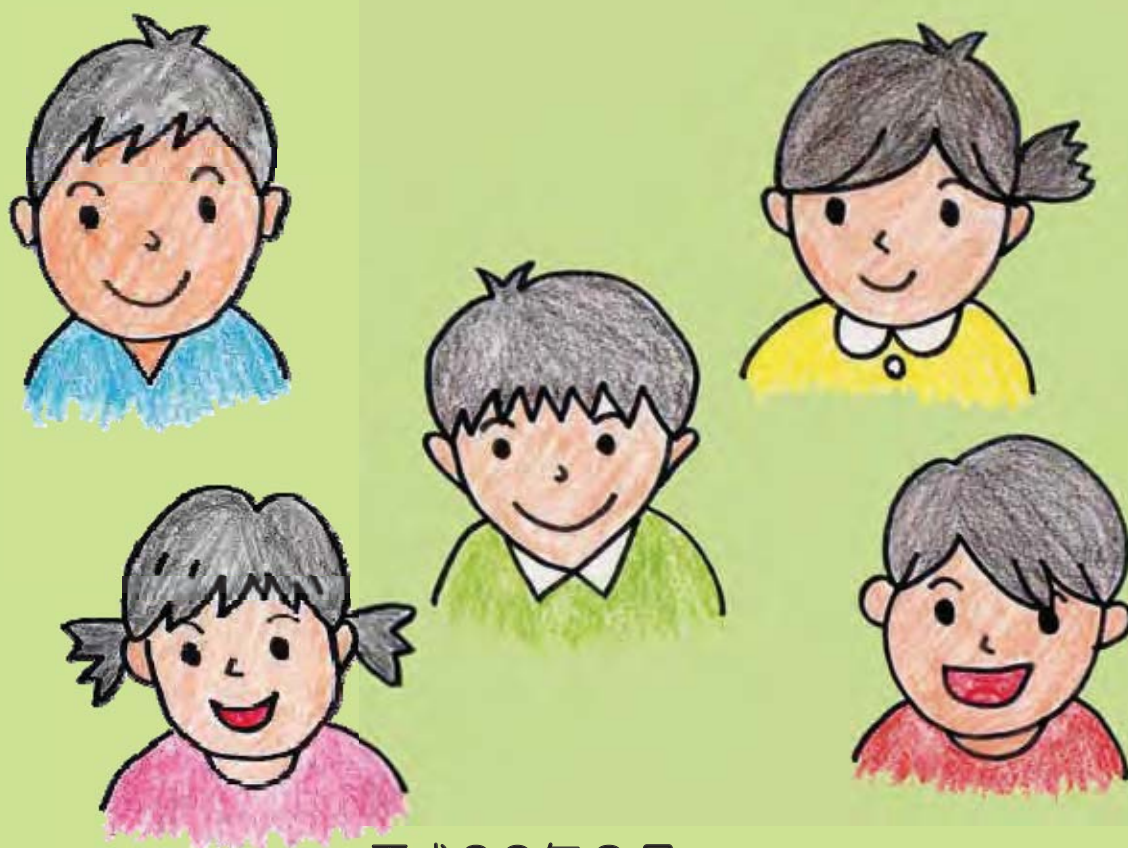
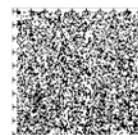


# 通常の学級における個別指導

— ひらがなの学習から児童を支える —



平成29年3月  
東京都教育委員会





## はじめに

東京都教育委員会は、平成16年に東京都における特別支援教育を推進するために、「東京都特別支援教育推進計画」を策定し、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童・生徒への指導と支援の取組を進め、全ての公立学校において特別支援教育体制の充実を図ってきました。

平成28年2月には、「発達障害の全ての児童・生徒が、その持てる力を最大限に伸ばし、将来の自立と社会参加を実現できるよう、適切な教育的支援を行うこと」及び「発達障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒が、共に学び合うことができるよう、通常の学級における教育的支援をはじめ、障害の状態に応じた多様な教育の場を拡充すること」を基本理念として、小・中学校、高等学校における発達障害教育に関する施策を展開するために、「東京都発達障害教育推進計画」を策定しました。

本冊子は、学級の中に読み書きに関して障害があり個別指導が必要な児童がいるが、どのように指導したらよいか分からない等、学級の児童の様子に心配を抱えている先生方の御参考にさせていただきたいと考えております。発達障害の中でも、特に読み書きに関して障害のある児童に対し、通常の学級の中で行う個別指導の事例を紹介し、実践に取り入れやすくなるような内容にしています。本冊子を手掛かりにして、児童の読み書きに関する困難が少しでも改善し、読むことや、書くことの楽しさ、喜びを感じられるようになることを願っています。

なお、本冊子では、読み書きに関する障害を「読み書き障害」と表記します。

各学校におかれましては、読み書きに困難のある児童への指導の充実に、本冊子をお役立ていただきますようお願いいたします。

平成29年3月

東京都教育委員会

※本冊子に掲載している画像は、第2回東京都立特別支援学校アートプロジェクト展（平成29年2月20日～3月6日）に展示された作品です。

# 目次

---

## 理論編

- 1 通常の学級における特別支援教育の重要性 . . . . . 4
- 2 通常の学級で特別な支援を実施することの効果 . 5
- 3 一斉指導と個別指導 . . . . . 6
- 4 読み書き障害とは . . . . . 9

## 実践編

- 1 一斉指導・個別指導1年間の流れ . . . . . 12
- 2 (1) 事例A . . . . . 20
- (2) 事例B . . . . . 22
- (3) 事例C . . . . . 24
- (4) 事例D . . . . . 26
- 3 一斉指導でのアプリケーション活用 . . . . . 28

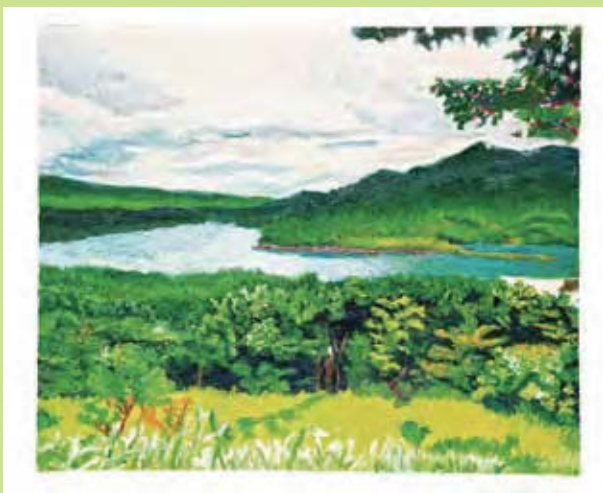
## まとめ

- 1 成果 . . . . . 30
- 2 課題 . . . . . 30

- 資料 . . . . . 31

## 理論編

- 1 通常の学級における特別支援教育の重要性
- 2 通常の学級で特別な支援を実施することの効果
- 3 一斉指導と個別指導
- 4 読み書き障害とは



山口 俊輔 《山中湖 ～パノラマ台～》



花房 メグミアイビー 《プリンス TNB》

## 1 通常の学級における特別支援教育の重要性

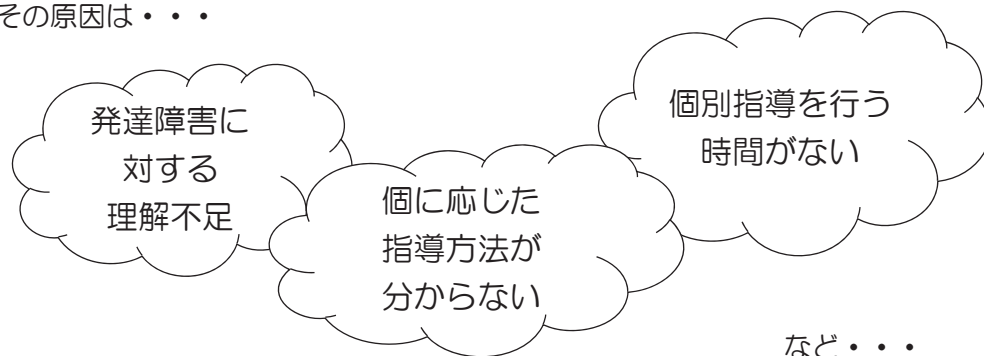
### 学級の中に気になる様子の児童はいませんか？

- 急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると不安になり、落ち着きがなくなってしまうことがある。
- 友達と話しているときに、自分のことばかり話してしまい、止められなくなることがある。
- 周りの人から「相手の気持ちが分からない自分勝手にわがままな子」と言われることがある。
- 頻繁に大事な予定を忘れたり、忘れ物をしたりする。
- 文字を読んだり書いたりするのが苦手であったり、作文や漢字の書き取り、音読が苦手であったりするため、学校の宿題に時間がかかってしまう。

都教育委員会が都内の公立小学校を対象に実施した調査では、通常の学級に在籍する児童・生徒の中で、校長が「発達障害」があるのではと考えている児童の割合は、小学校で6.1%という結果でした。すなわち、通常の学級の中に一人か二人程度、発達障害の可能性のある児童が在籍しているということになります。

通常の学級には様々な実態の児童が在籍しています。担任は一人一人の児童に目を配りながら学級を経営し、全ての児童の成長に向け日々指導を行っています。上記のような様子を示す児童たちは、学級の中で、何らかの特別な支援を必要としています。しかし、様々な理由から、適切な支援を受けられていないこともあります。

その原因は・・・



## 2 通常の学級で特別な支援を実施することの効果

何らかの困難を抱えている児童に対し、できるだけ早期から教育上必要な支援を行うことで

児童の学習意欲の向上・学力の向上  
行動面・対人面のスキルアップ  
集団適応能力の伸長  
在籍学級の運営の安定化  
二次的な障害の防止

などの、様々な効果が期待できます。

様々な困難を抱えている児童が集団の中で適切な支援を受け、力を付けていくことは、本人にとっての効果のみならず、友人や学級全体に対しても様々な良い結果を生むことにつながります。

良い結果とは、個別指導が必要な児童のための教材の工夫や提示の仕方、環境の整備などの配慮が、他の多くの児童にも有効に作用し、支援の必要な児童に対する手だてが一斉指導の充実につながるということです。

すなわち、通常の学級において特別支援教育の視点を取り入れることは

全ての児童を大切にす指導

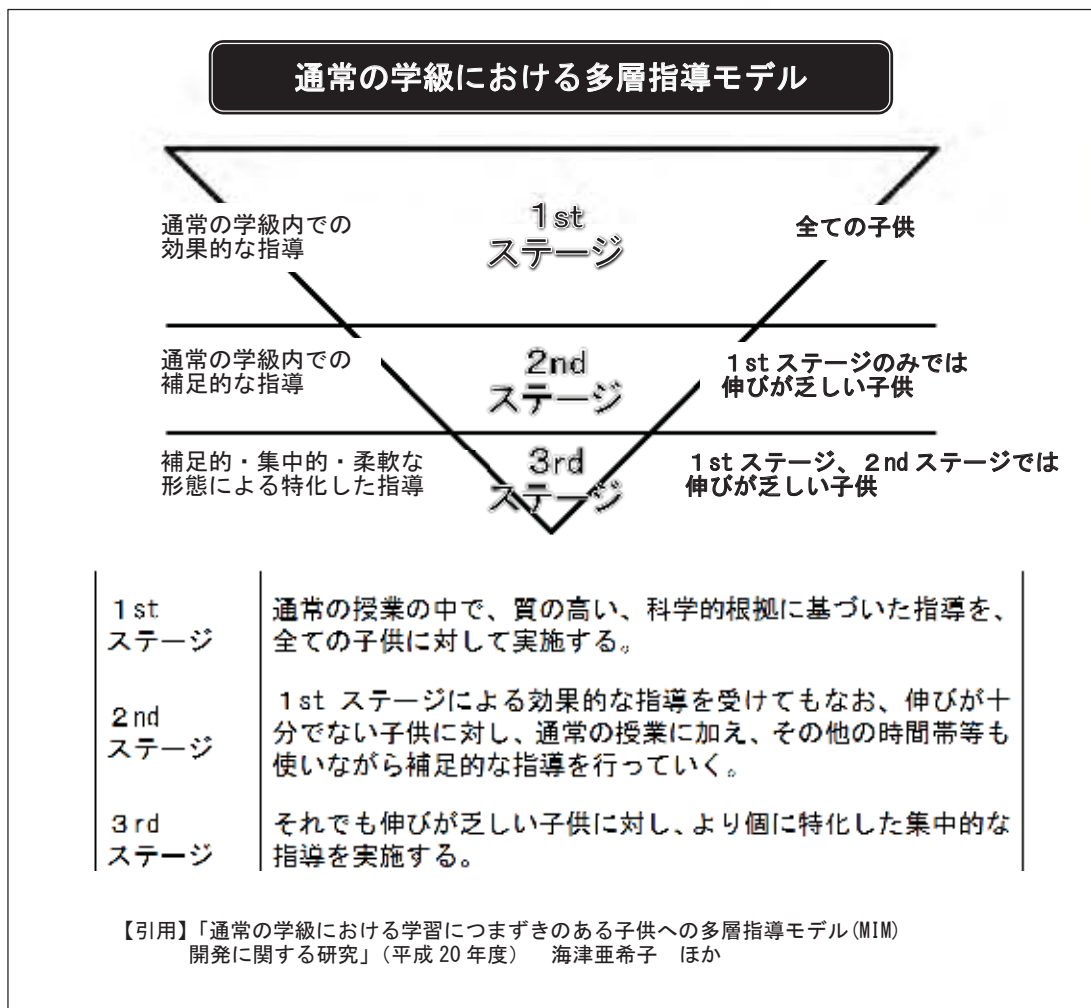
であるといえます。



### 3 一斉指導と個別指導

#### 通常の学級に在籍している様々な実態の児童

通常の学級に在籍している児童の実態に応じ、下図のように、通常の一斉指導に加え、特別支援教育の観点からの個別指導を行う必要があります。





担任は様々な支援を必要とする児童に対し、一斉指導の中で個別指導を行うことが求められます。一斉指導の中で個別指導を行うことは、実際には従来から教室の中で様々な形態で行われています。

例えば、一斉指導の中で教員が個別に言葉掛けを行ったり、複数種類のワークシートを準備し、児童が学習進度に応じて選択できるようにしたりすることは、一斉指導の中での個別指導と言えます。

また、必要に応じて一対一の指導時間を設けることもあります。

児童一人一人に対して適切な指導を行うためには、一斉指導と個別指導を別のものとして計画するのではなく、学級に在籍する全ての児童を対象とした一つの計画の中に、一斉指導と個別指導が適切に組み込まれていることが大切です。

#### 一斉指導の中で個別指導を行う際の留意点

- 個別指導を一斉指導の中に位置付けた計画を立てる。
- 個別指導と一斉指導が有効に機能するような計画を立てる。
- 必要な支援を受けることは、普通のことだと受け入れられる学級集団をつくっていく。

### どの学級にもいる特別な教育的支援を必要としている児童たち

どの学級にも、知的発達に遅れはないものの「正しく文字が読めない」「正しく漢字が書けない」「計算がとても苦手」「落ち着かず、授業中に離席してしまう」「全体への指示では理解できない」「友達とのトラブルが多い」「手先が不器用」「こだわりが強く、変化が苦手」など、気になる児童がいるのではないのでしょうか。

これらの児童に対し様々な指導を行っても、なかなか課題の改善が図られない場合、その要因の一つとして発達障害の可能性が考えられます。発達障害は発達障害者支援法において、「発達障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害で、通常低年齢で発現する障害）がある者であって、発達障害及び社会的障壁により日常生活または社会生活に制限を受けるもの」と示されています。

#### 学習障害

全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。

#### 注意欠陥多動性障害

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学校生活で著しい困難を示す。

#### 高機能自閉症

他人との社会関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないもの。

教員は、児童がどのようなことで困っているのか、どのような支援を必要としているのかを理解し、具体的な支援策の検討を重ねることが大切です。

## 4 読み書き障害とは

### 学習障害の一つである読み書き障害について

読み書き障害は、知的な遅れや視覚障害はないが、読んだり書いたりすることが苦手な障害です。「文字とその文字が表す音とを一致させることが難しく、音読が極端に遅く、読み間違いが多い」、「音読と意味理解が同時にできにくいため、読んだ後に、内容を十分に理解できていない」、「読むことはできるが、その内容を文章に書くことが困難」など、一人一人様々な困難を抱えています。

文部科学省による平成24年の全国調査では、「知的発達に遅れはないものの読む、または書くに著しい困難を示す、通常の学級に在籍する児童・生徒の割合」は2.4%であったと示されています。

読み書き障害は、学習上の困難があることから、主たる指導・支援を学校で行います。集団での指導を基本とする通常の学級での指導において、個々の読み書きの実態をきめ細かく把握し、実態に応じた効果的な指導・支援を十分に行うことが求められます。

#### 読みの特徴

- 簡単な文章が読めない
- 読み飛ばしをする
- 読み間違える  
(例：「クリニック」→「クリーニング」)
- 似た意味の漢字と間違える  
(例：「楽器」→「音楽」)
- 逆さ読みをする
- 意味に関係なく、似ている語を読み間違える
- 文字と音を結び付けるのに時間がかかる

#### 書きの特徴

- 鏡文字を書く
- 言葉の順番が逆になる
- 発音通りに書くことが難しい
- 読み上げられた文字を適切に書くことが難しい
- 自分の意見や考えを書くことが難しい

読み書き障害の児童は、おしゃべりが上手で人間関係も良好な場合も多く、「見逃されやすい障害」と言われています。しかし、それゆえ誰にも気付かれず、苦しんでいる児童がいることを忘れてはいけません。ひらがなを学習する早期機会から適切な支援を受けることで、その後の児童の自立と社会参加は大きく変わっていくことができます。

